

# AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

## TOP INTERVIEW

株式会社長谷駒組  
代表取締役 長谷川 尚造 氏

秋田市生まれ。東京の大学卒業後に大手ゼネコン 間組(現 安藤ハザマ)に就職し、4年間勤務後に1997年に株式会社 長谷駒組に入社、2010年に株式会社 長谷駒組三代目社長就任。



## 建設業は特に信頼の方が大切なサービス

**工藤** 長谷川さんご無沙汰しておりました。まずは秋田の建設業界の近況を教えてくださいませんか？

**長谷川** 建設業界は現在多くの問題を抱えています。その多くの問題に起因しているのが深刻な人手不足問題です。この人手不足は、もはや建設業の産業構造そのものまでも及ぶ重要課題として挙げられています。以前は仕事を受注する元請け業者がインシァチブを持って協会会社さんと一緒に仕事をしていました。しかし現在はとにかく職人さんの絶対数が少ないため、受注した案件の職人さんの取り合いが生じてしまいます。結果として原価やコストが上昇し利益率や売値にそれが転嫁されてしまうという循環をつくっているのが業界の現状です。特に賃金の低い地方都市は影響を受けやすく、こと全国でも低水準の秋田ではより一層苦しい現状です。

**工藤** なるほど、人手不足が業界全体の課題、中でも秋田にとってはさらに深刻な課題というわけですね。参考までにコロナによる影響などはいかがですか？

**長谷川** ひょっとしたら他の業界に比べると直接的な影響は少ないのかもしれませんが、実感値として会合や会食の機会が制限されていることは目に見えない大きな影響があると感じています。建設業界にとって情報

報交換の場が極端に減ったことで、どうしても生きた情報が得にくくなってきています。会合の場での話が仕事につながることは秋田ではよくありますので、影響が大きいと感じています。

**工藤** やはり人の繋がりから生まれる仕事は多いですから、絶対的に影響がありますね。長谷川さんが考える秋田としてのビジネス上のメリットをお聞かせ下さい。

**長谷川** 「信頼を掴めると商売がしやすい」ということでしょうか。特に私がどうこうということではないのですが、先々代、先代から続く「長谷駒組」という会社に築き上げられた信頼は、事業を引き継いだ私にとっては、何より有難い価値だと感じています。当社は建築業の中でも特に地域に根差した地域密着型の企業であり、また建築業は比較的金額よりも信頼の方が大事だったりするサービスなので、秋田での知名度と信頼には大いに助けられています。そういった点では、信頼が構築できれば秋田でのビジネスはしやすいと思いますし、誠実にやっていると評価され、それがまた信頼につながると思います。もっとも信頼を裏切ることとその逆もあるわけですが、、、いずれにしても大都市と比べるとイメージが付きやすいので、誠実に一生懸命きちんと商売していれば信頼というブランドを比較的得やすいかと思えます。

**工藤** ビジネスにおいて信頼というブラン

ドを得るのは決して易しいことでは無いですが、秋田だからこそ得やすさ！はありますね。では逆にデメリットなどを感じることはありますか？

**長谷川** これは秋田に限った話ではありませんが人口減少です。人口減少による税収の減少によって公共事業の数や予算が減ってしまっています。また家を建てる人も少なくなる訳で、建設への投資は必然的に減ってしまっています。どうしても人口減少により買い手が少なくなる状況です。

**工藤** 人口減少による絶対需要量の減少、冒頭のお話にあった人手不足による供給の課題、入口も出口もボトルネックになりそうだなかなか厳しいお話に感じますが、打開策やチャンスと見ていることはありますか？

**長谷川** はい。最近PFIといった方法を公共事業でも採用しはじめていて、私たちも注目していますし実際に挑戦しています。PFIとは、自治体が民間の技術、資金、経営ノウハウを活用して、少ない予算で公共財を民間に提供する仕組みです。自治体の要望に沿って、建築、設計、不動産、各種専門業者がチームを作って、互いの長所を生かした案を作り自治体に提出します。これは多くの場合、プレゼンをする機会があり、最近ではそういったスキルも必要になっています。

**工藤** 新たな手法や考え方は進化につながる可能性を持ちますので期待したいですね。

あきたBIZフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

時に多くの業界ではICT やIoTの進化も望まれていて、先の人手不足問題にも直結する可能性を秘めていると思いますが、そのあたりはいかがでしょうか？

**長谷川** 土木分野では比較的ICTやIoTが進んでいて、効率化などの観点で我々も急速に取り入れています。建築分野は手作業でないと難しい作業も多く苦戦しています。一方で効率性の向上や人手不足に対して、外国人労働者の登用は大きな鍵になると考えます。我々の業界に限らず人手不足は共通的な問題だと認識しています。異なる業界の経営者との話の中でも、外国人労働者の話題は最近よく出ることが多いです。

**工藤** 人手不足や外国人労働者。ストレートにビジネスチャンスの芽といっても過言ではありませんね。

**長谷川** 新たな人材サービスの仕組みがあると業界としては嬉しいですね。人材サービスに限らず、首都圏や他県にあるけど秋田にない商品やサービス。そういった中にもビジネスチャンスはたくさんあるの

かな？と思っています。

**工藤** 最後にありますが起業家の皆さんにメッセージをお願いします。

**長谷川** 私のような三代目経営者には起業することの大変さは分かりませんが、外から見ていてひとりで抱えすぎてしまっていると感じる人もいます。一人で抱え込まずに、相談できる人を作るためにも、ぜひ色々なところで人脈を作ってください。高い熱量を持った起業家の方々に託してみたいという経営者も少なくないはずですし、長く続いている企業には閉塞感もあるので、枠にとらわれない考え方を持った方との出会いは我々のような経営者にとってもメリットになります。

### 長谷川さんの趣味について教えていただきました。

長谷川さんは歴史好きで特に好きなのは戦国時代とのこと。一番好きな戦国武将は上杉謙信で、特に、義を第一に掲げて戦い続ける姿をリスペクトしているそうです。経営者としての判断でも時に戦国武将の決断や判断方法を参考にしているそうです。調べてみると一般的なイメージとかけ離れた武将の生き様を知ることも好きだそうです。また、大河ドラマ「青天を衝け」の渋沢栄一は「日本資本主義の父」といわれるほどの実業家で、彼の起こした会社が現在もたくさん続いていることや、彼の考え方が現在のSGDsに通じる点があり、これからの時代を生きていくうえで、渋沢栄一の人生を知ることもおすすめとのことでした。

本日は貴重なお時間とお話しを本当に有難う御財増した。

インタビュー

合同会社ジェグルス(共同事業体ジェイワン) アントレプレナー・コンシェルジュ 工藤 実

ライター 秋田大学2年 小林 恵大

企画 共同事業体ジェイワン(秋田市ビジネススタートアップ支援事業)

